

青丘文庫研究会 〒657-0064 神戸市灘区山田町3-1-1 (公財)神戸学生青年センター内

TEL 078-851-2760 FAX 078-821-5878 <http://ksyc.jp/sb/> e-mail hida@ksyc.jp

①在日朝鮮人運動史研究会関西部会（代表・飛田雄一）

②朝鮮近代史研究会（代表・水野直樹）

郵便振替<00970-0-68837 青丘文庫月報>年間購読料 3000 円

※ 他に、青丘文庫に寄付する図書の購入費として2000円/年をお願いします

④-スおまけの11-2-1に展開の問題点

ヲースの野口は、1991年に大阪府と大阪
 市が共同して出資して建設した大阪空襲の最
 境を伝えることを使命とした戦争と平和の博
 物館類似施設である。公的施設として、日本
 が初めて15年戦争の被害と加害を統合して展
 示した。このことで高く評価する声がある一
 方、歴史修正主義の立場から「自虐史観の博
 物館」として攻撃を受けることになった。特
 に南京大虐殺の展示が論点となった。

2008年、大政府初選に橋下徹が参戦すると、
LBJRの財政再建のため財として従来の指針
の大幅に見直しを宣言した。その多くは、長年
の国民の苦悩を踏まえられた文化行政や地
方行政に大方向転換することであった。と、最
初の権帥として述べたが、ピーエおさおさに対
する予算の大幅削減があった。

橋本研究所と提携するとして、市議会議員が大阪府議会に会を立ちあげた。大阪府議会と第一党になった2011年には、「ローエのふくむのは、館にする」、「西の端に館に作り置きする」などの暴言が投げかけられ、ローエはおおまかの設立、運営に抵抗してきた市民団体也研究開発は、これを批判して撤回を求めた。

その後、阪神と大坂市が統合するという大
阪維新の会の方針により、府市議会本部が発
けられた。そのテーマの一つが「ピーエああ
さか。在り方とヒロから見直す」である。この
大坂維新の会に対する批判もあり、維新の
発格は裏切りである。と批判された。

「まずと、博覧した20年間、展示はニュー・アル
ズとして知られた。問題はとして活とし
てのりにはニュー・アルズのウィーヌスおよびの変遷を
示す。展示が2013年9月、これま
で運搬団体と協議してウィーヌスおよびを変
換し、その変換がニュー・アルズ、一人上除いた
入場券にされた。そして4月に完成、従来の
展示とは異なるニュー・アルズ基本構想」の
説明された。

その内容は①大阪学芸の展示台4/5に、②
子ども目線に、③主体的に展示できるものと

横川篤久

うたのふたつは、この触手に対して「軍閥団体」を批判し提言を進めたという。一パルチ
軍閥団体のことを言及し、「この一入が、この
11の一パルチに、市民の声、実行委員
会」(以下実行部と略記)を結成した。

基本構想の三点は、まず上とした内容が中
海を以て、被写と加害と結合した展示を基礎
とせる空襲の歴史専門の展示館に、まず上と
下からで、あつて例へば大阪空襲の歴史の
中にせうに位置づけられ、日本軍の重慶爆
撃に被せざるを得ず、空襲と近づく被写と加
害と結合した展示に出来てはゐる。

そのため館とまじえて学芸会に組合せ、
その内のいくつかは展示にも上映させると
断言した。しかし全体像は非公開が執行され

一部例示で此に展示の門題は、比較して改善
させるとは可能だが、全体としては大阪空
港の概要の外は殆ど、時代背景としての愚不
解談には、目も当てられない歴史を直列連
明かりに開通する食事もに付さずし、

現行リニューール版では、ベースをおおむねの
のあきき年毎に更新された、其事の歴史をさ
らんと表示し、残り現状ではほとんどたうに見え
るには有富た、と、この批判がある。しかし毎
年9万人程度の見学者があり、その70%は学
校から見学に来る小、中学生である現状を考
え、この批判の論点を正確にみる。前述し
た歴史を改め、と、さして、改革を考
えることは基本的批判の二併せてして、中二と
必要だと考える。

その際、現在の展示は本来の大阪空襲の真
相を概観し下りた位置にしているが、というところが
実行委員の鑑賞者からそのころの批判・提言が積
められてきている。大阪空襲では1万5千人
以上が死亡した。その内には軍国から強制
連行されて空襲に巻きこまれた人、捕虜に
なされた人。ために当時の大阪市民の一大割
くを占めた。驚かされた。空襲で死んだ人は
2は全く知られずとされている。その空襲犠
牲の捕らえた大阪空襲の絵は14点、展示されて
いる。300点に及ぶ身体絵画の中、14点の「ウラウラ
14点の」という題語、そしてこの14点の絵は
の絵画が不可解である。中には軍国から被害者
の絵画が「展示」は全く知られずとされている。

第379回在日朝鮮人史運動史研究会関西部会<その1> 2017年2月12日

「猪飼野セッパラム文庫」1軒丸ごと朝鮮韓国在日の図書資料でいっぱい

藤井幸之助



「猪飼野セッパラム文庫」(玄関前)は上野台地の上の静かな住宅街の中にある。

「猪飼野」は古代より朝鮮半島からの渡来人も多く、戦前戦後、東成区・生野区にまたがった地域の地名で、在日朝鮮人の集住地域として知られていた。しかし、1973年に町名改正で、地名としてはなくなった。

また、1980年代から90年代にかけてこの付近には「猪飼野朝鮮図書資料室」「学林図書室」「青丘文化ホール」「カラ文化情報センター」など、朝鮮韓国在日に関する専門図書館等があったが、様々な事情で今はない。

学生時代から「猪飼野朝鮮図書資料室」の運営に関わったり、「青丘文庫」の在日朝鮮人史研究会関西部会に参加していたこともあって、この「猪飼野」に隣接した天王寺区細工谷で、民家を利用して、誰もが利用できる、みんなのまちの人権図書館「猪飼野セッパラム文庫」(셋바람とは朝鮮語で「東風/こち」を意味し、「新しい風」の意味ももたせている)を2015年5月に開館した。キャッチフレーズは「1軒丸ごと朝鮮韓国在日の図書資料でいっぱい、みんなのまちの人権図書館・チラシ図書館！」。



(左)「映像で見る朝鮮韓国在日」第1回上映会。『異邦人の河』上映と合わせて、助監督をされた李春浩(イチュウ)さんを松本からお呼びした。(2015年11月)

(右) 静岡県立大学高畑幸ゼミの学生たちが来館。この後、猪飼野フィールドトリップに。(2016年9月)

毎週土曜日午後1～5時までの開館と月1回、コリアン・マイノリティ研究会月例研究会と「映像で見る朝鮮韓国在日」上映会を開催している。

大学生の卒論・大学院生の修論・博論の支援もおこなっている。コリマイ研で中間報告後、卒論提出後に本報告してもらっている。

レファレンス（相談業務）にも力を入れ、来館・電話・メールなどで受け付けている。

研究会の折、飛田雄一さんから、「現在の青丘文庫は書架の増設や新刊の受け入れもむずかしい状態だ」というコメントもいただいた。猪飼野セツパラム文庫の場合はスペースが非常に限定されているために、コンパクトだが、内容の詰まった文庫にしていく必要がある。

文庫は現在、生野区にこそないが、JR 環状線・地下鉄・近鉄鶴橋駅から徒歩で15分程度という立地にある。猪飼野フィールドトリップにはうってつけた。

また、文庫の前を南北に走る道沿い（難波之宮の朱雀大路らしい）半径2キロ以内に実に多くの高校がある。近鉄沿線には大阪朝鮮高級学校もあり、高校生たちの利用が大いに期待できる。学校帰りにふらつと寄ってもらえるような場所になるよう努力していきたい。（藤井幸之助 / 同志社大学嘱託講師・猪飼野セツパラム文庫主宰・コリアン・マイノリティ研究会世話人）

猪飼野セツパラム文庫 <http://sepparam-bunko.jimdo.com/>

■開館：土曜日 13:00～17:00 入館・閲覧無料 できれば来館前にご連絡ください。これ以外のご利用も対応可

■543-0032 大阪市天王寺区細工谷 2-14-8 masipon@nifty.com ☎090-9882-1663

●蔵書案内（編著者名を50音順で配架）どなたでもご利用いただけます。所蔵資料（日本語・朝鮮語・漢語）書籍・雑誌・チラシ・パンフレット・テープ・CD・DVD・ビデオ（未整理のもの多数）・民族団体・民族学校・運動団体関連資料・行政外国人施策関連資料・民族まつり/マダン関連資料・モノ

●調査相談（レファレンス）サービス：朝鮮韓国在日についての本や資料の相談。●関連論文・卒業論文・修士論文・博士論文の収集。●チラシ・パンフレットの収集・データベース化。●「猪飼野アクセスマップ」（『季刊 Sai』vol.3, 1992 年掲載）の改訂作業。●各種講座・催しの開催：コリアン・マイノリティ研究会・「映像で見る朝鮮韓国在日」上映会・朝鮮語＝韓国語講座・手話教室・猪飼野セミナー・映画上映会・ワークショップ・フィールドトリップ・講師派遣・会議貸室・宿泊可。●耳寄り情報満載「朝鮮韓国在日・これからの催し」毎週月・木2回メール配信。●書籍委託販売・古本販売・グッズ販売。

第379回在日朝鮮人史運動史研究会関西西部会＜その2＞ 2017年2月12日

「京都、辻紡績と朝鮮人労働者」

高野昭雄

戦前期の京都市で、最も多くの朝鮮人労働者が働いていた工場は、辻紡績の三条工場・四条工場である。そのレンガ造の建物は、現在に至るまで、日本写真印刷の工場として残されている。

辻紡績では、京都府出身の労働者が少なく、会社は、富山県・朝鮮半島・新潟県・沖縄県・鹿児島県等から女子職工を集めていた。辻紡績の最盛期は、1920年代中頃であり、その当時、約1700人の労働者中、約1300人が女子職工であった。また女子職工中、約300人は朝鮮人であった。

辻紡績は、朝鮮人の相互扶助団体・内鮮融和団体である協助会、および悪辣な御用団体と目される相愛会とつながりを持ち、朝鮮人労働者を集めていた。この実態を明らかにするため、本研究では、一人の朝鮮人に注目した。この人物は、辻紡績の職工からやがて職工監督となり、ついには相愛会幹部となっていく。京都の相愛会は、暴力事件を頻繁に起こし、朝鮮人のみならず日本の官憲からも厄介視されるようになっていった。そのため戦時期の協和会とは、つながりをもたなかった。

辻紡績は、1930年代初頭に労働争議で揺れ、経営危機の中、その工場は、戦時中に、島津製作所の軍需工場へと転換されることとなった。以上の事実を、当時の新聞史料等を元にして、明らかにした。

●青丘文庫研究会のご案内●

■第381回在日朝鮮人運動史研究会関西部会

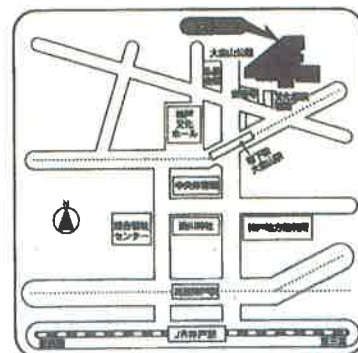
2017年4月9(日) 午後1時～3時

「日韓条約時の新聞社説」梶居佳広

■第 回朝鮮近現代史研究会

「植民地朝鮮における警察犯処罰規則の制定」吉川絢子

※会場 青丘文庫(神戸市立中央図書館内、TEL 078-371-3351、新館3階で身分を証明するものだして入館証を受け取り4階会議室にお越しください。)



<予告>日韓合同研究会

日時：2017年8月5日(土)～6日(日)、於：韓国・郡山

主催：在日朝鮮人運動史研究会関西部会、在日朝鮮人運動史研究会関東部会、韓国民族問題学会(ソウル)

【今後の研究会の予定】来月以降の予定。5月14日(日)在日(本岡拓哉)、近現代史(佐野通夫)、6月11日(日)在日(キムソニア)、近現代史(松田利彦)、7月9日(日)在日(梁千賀子)、近現代史(藤永壮)、8月は休み。9月10日(日)在日(河かおる)、近現代史(未定)、10月8日(日)在日(李裕淑)、近現代史(山根俊郎)、11月12日(日)在日(高木伸夫)、近現代史(未定)。研究会は毎月第2日曜日です。報告希望者は、飛田または水野まで連絡ください。

【月報の巻頭エッセイの予定】 5月号以降は、松田利彦、西村寿美子、玄善允、川口祥子。よろしくお願いします。締め切りは前月の10日です。

【月報の巻頭エッセイの予定】 ■全国的には桜の開花が始まっていますが、なぜか神戸はまだのようです。少々寒いのでしょうか？ ■4月から研究会も新年度です。青丘文庫研究会会員(月報購読)は3000円の送金をよろしくお願いします。ただし学生会員で月報の送付が不要な方は会費を免除し会員証を発行します。希望の方はその旨、飛田 hida@ksyc.jp まで連絡下さい。他に、在日研究会の会費は5000円で雑誌3冊を入手できます。またよろしければ文庫に寄付する図書の購入カンパとして2000円をお願いします。送金先は、郵便振替<00970-0-68837 青丘文庫月報>です。 ■先日の第10回強制動員真相究明全国研究集会「強制連行・強制労働をどう伝えるか?」(2017年3月25日(土)13:30～18:00、松本あがたの森文化会館講堂)はとても充実したものでした。レジメ集改訂版(A4、140頁)を送料とも800円で配布します。希望者は、<00930-9-297182 真相究明ネット>まで送金をよろしくお願いします。(飛田)